

濃厚飼料をめぐる情勢

畜産局飼料課

令和 7 年 9 月

農林水産省

農林水産省ホームページに掲載しています

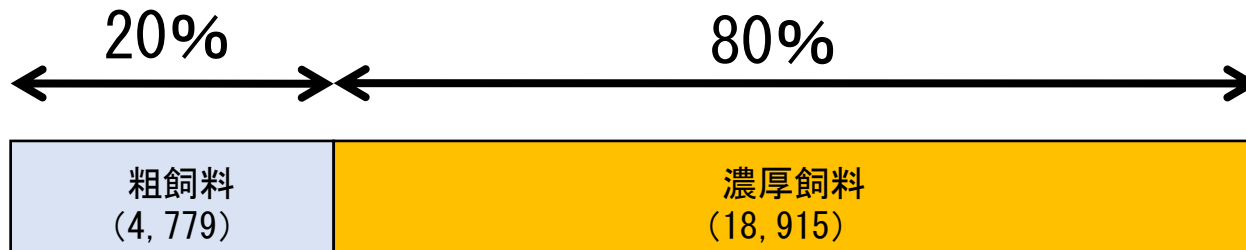
https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/index.html



1. 飼料自給率の現状①

粗飼料と濃厚飼料の割合（T D N ベース）

令和5年度供給量（概算） 23,693千T D N トン



粗飼料 : 乾草、サイレージ、稲わら等



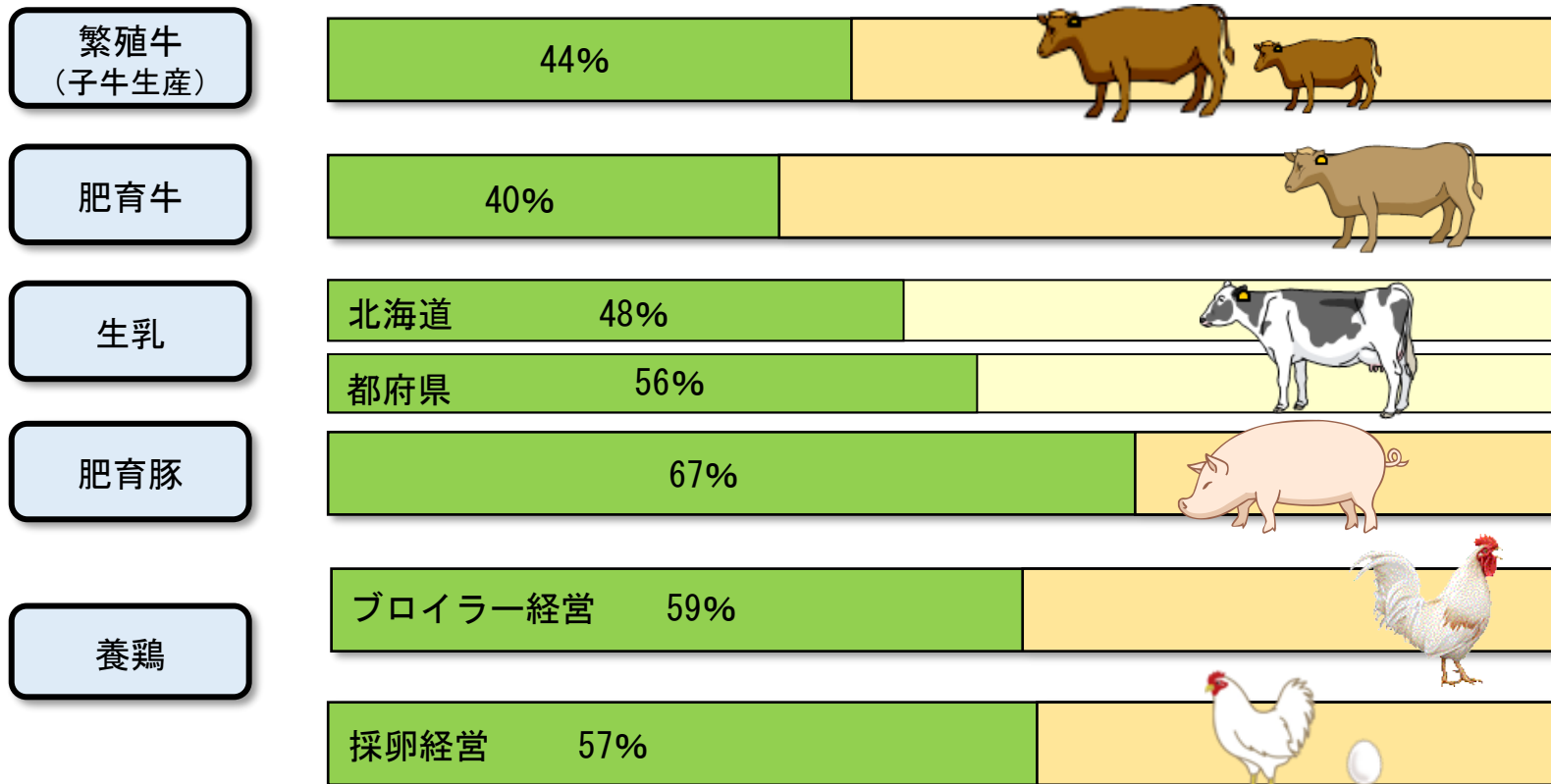
濃厚飼料 : とうもろこし、大豆油かす、
こうりゃん、大麦等



注 : T D N (Total Digestible Nutrients) : 家畜が消化できる養分の総量。
カロリーに近い概念。 1 T D N kg $\div$ 4.41 Mcal

1. 飼料自給率の現状②

経営コストに占める飼料費の割合

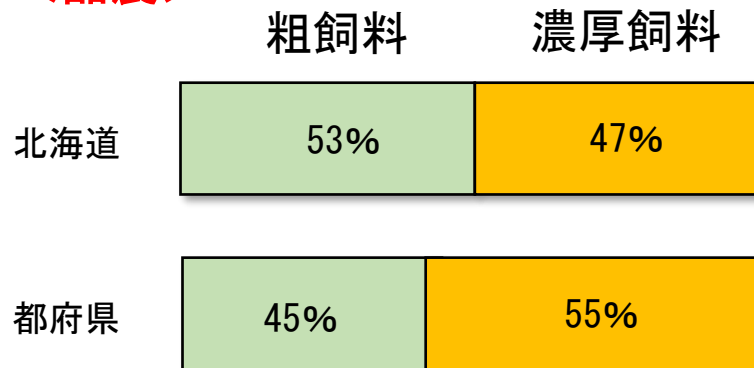


資料：令和5年畜産物生産費統計（第1報）および令和5年営農類型別経営統計（第1報）

注：繁殖牛（子牛生産）は子牛1頭当たり、肥育牛および肥育豚は1頭当たり
生乳は実搾乳量100kg当たり、養鶏は1経営体当たり

畜種別の粗飼料と濃厚飼料の割合（令和5年：TDNベース）

<酪農>

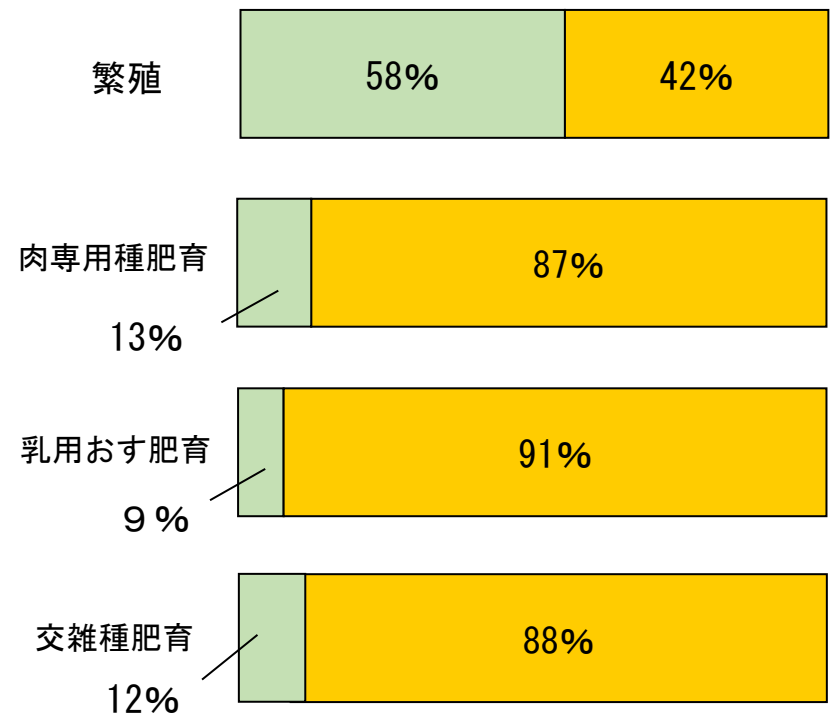


<養豚・養鶏>



（令和5年畜産物生産費統計（確報）より試算）

<肉用牛>

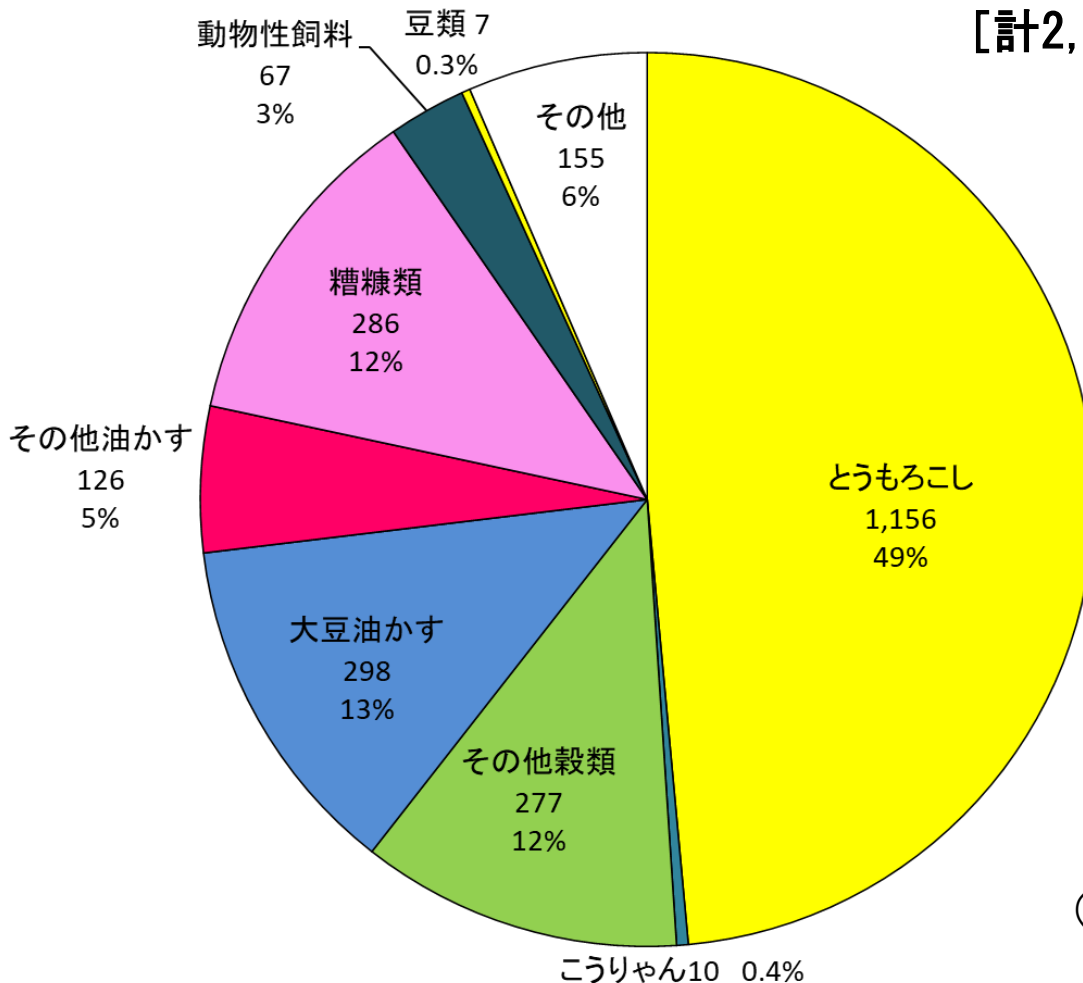


配・混合飼料の原料使用量（令和6年度）

[計2,383万トン]

※デンプン質が多く
使いやすいとうもろこし
が約5割を占める。

上段：使用数量（万トン）
下段：割合（%）



（公社）配合飼料供給安定機構「飼料月報」

とうもろこしの貿易状況

我が国のとうもろこしの主な輸入先とシェア

	R 4 年度	R 5 年度 (確々報値)	R 6 年度 (確報値)
米国	44%	46%	81%
ブラジル	45%	42%	18%

資料：財務省「貿易統計」

世界のとうもろこしの輸出状況（百万トン）

	R5/6		R6/7		R7/8（予測）	
	輸出量	割合	輸出量	割合	輸出量	割合
米国	57.3	30%	71.9	37%	75.6	37%
ブラジル	38.3	20%	43.0	22%	43.0	21%
アルゼンチン	36.3	19%	34.5	18%	37.0	18%
ウクライナ	29.5	15%	20.6	11%	25.5	13%
世界計	192.6	100%	193.8	100%	201.7	100%

2. 濃厚飼料の現状③

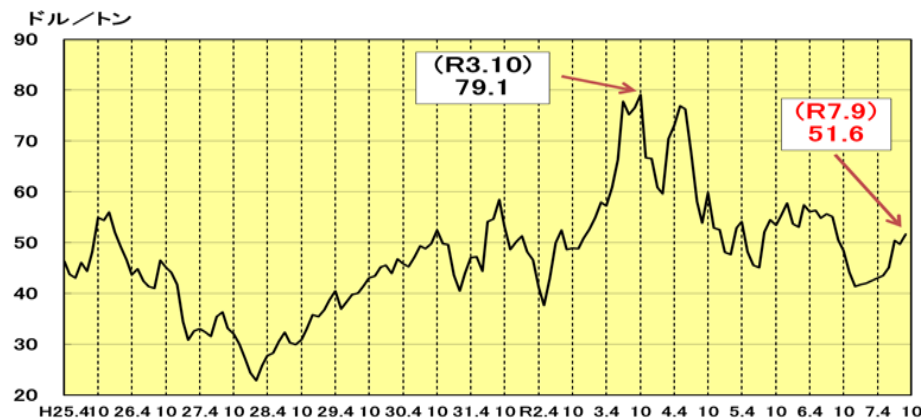
飼料用とうもろこし輸入価格の構成

シカゴ相場の推移（期近物）



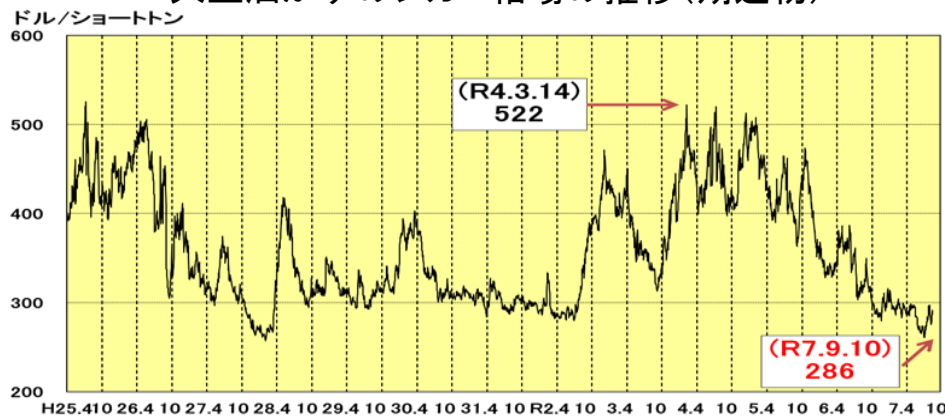
注：シカゴ相場の日々の終値である。※1ブッシェル=25.4kg

海上運賃の推移(ガルフ～日本)



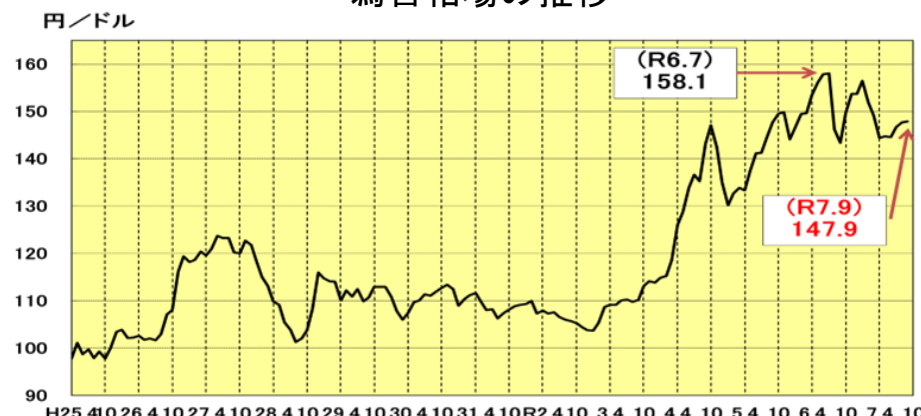
注：月平均値である。(令和7年9月の値は第1週までの平均値)

大豆油かすのシカゴ相場の推移(期近物)



注：シカゴ相場の日々の終値である。 ※1ショートトン=907.2kg

為替相場の推移

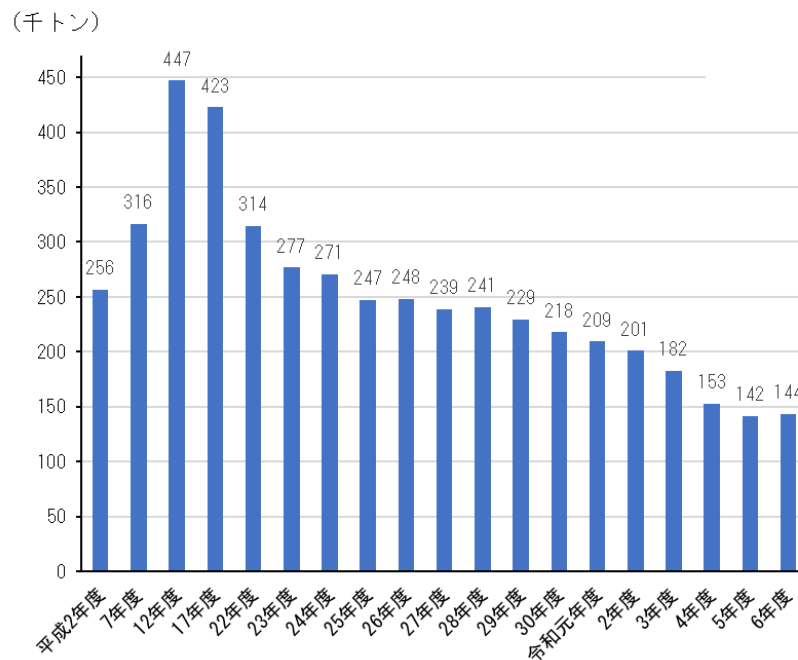


注：日々の中心値の月平均である。(令和7年9月の値は10日までの平均値)

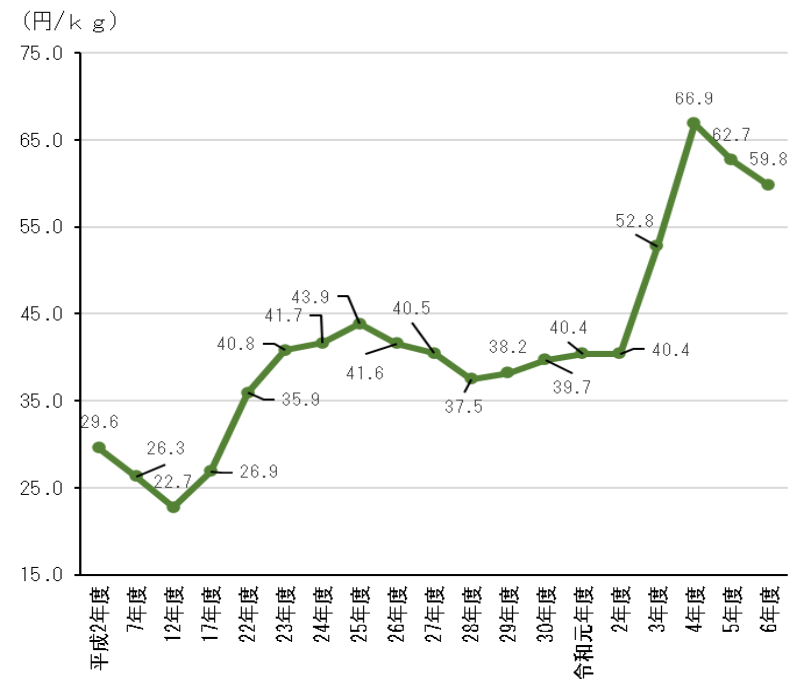
2. 濃厚飼料の現状④

単体飼料用とうもろこしの生産及び価格の推移

単体飼料用とうもろこしの出荷量の推移



単体飼料用とうもろこしの価格の推移



資料：(公社) 配合飼料供給安定機構「飼料月報」

注1：「単体飼料用とうもろこし」は、自家配合飼料原料用として、指定飼料工場で圧ぺん等の加工を施し出荷されたもの。

注2：単体飼料用とうもろこしの価格は、工場渡価格である。

2. 濃厚飼料の現状⑤

畜産生産額と配合飼料工場の立地^(注)

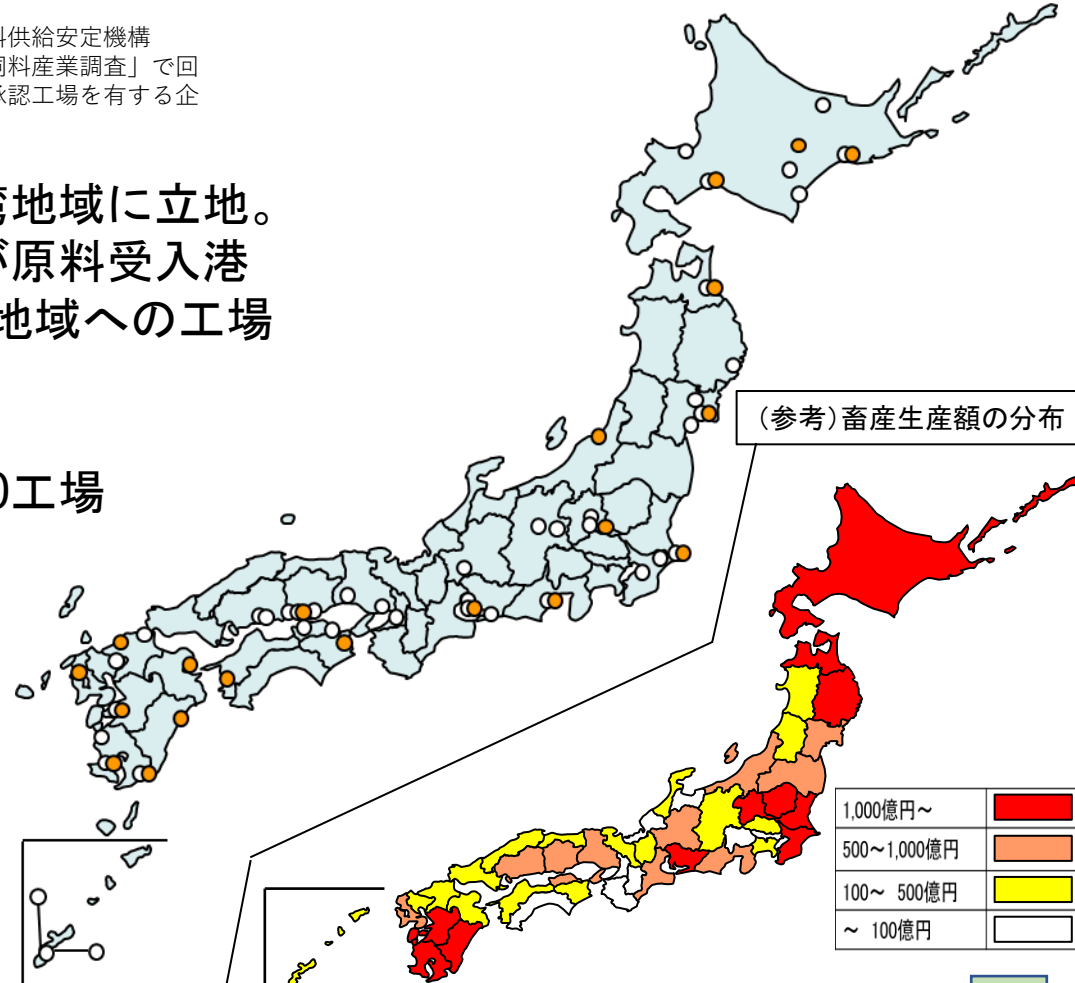
企業数：57社
工場数：102工場

注：公益社団法人配合飼料供給安定機構
「令和5年度に係る配合飼料産業調査」で回答のあった承認工場及び承認工場を有する企業

- ・ 飼料工場は、主に太平洋側の港湾地域に立地。
- ・ 畜産主産地から比較的近い港湾が原料受入港として整備され、そのような港湾地域への工場の集約が進展。

うち全国生産者団体系列の工場：20工場

- 系列の工場のみ立地
- ◐ 系列と系列以外の工場が立地
- 系列以外の工場又は畜産以外の工場のみ立地



資料：農林水産省「令和5年農業産出額（都道府県別）」